

豊中市社会福祉協議会の

CSWと生活困窮者自立支援とirikumi

地域共生社会へのあらたなステージへ

中高年の引きこもり問題



マスコットキャラクター
“びーのん”
よろしくね!!



社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会 勝部麗子

社会的孤立の状況

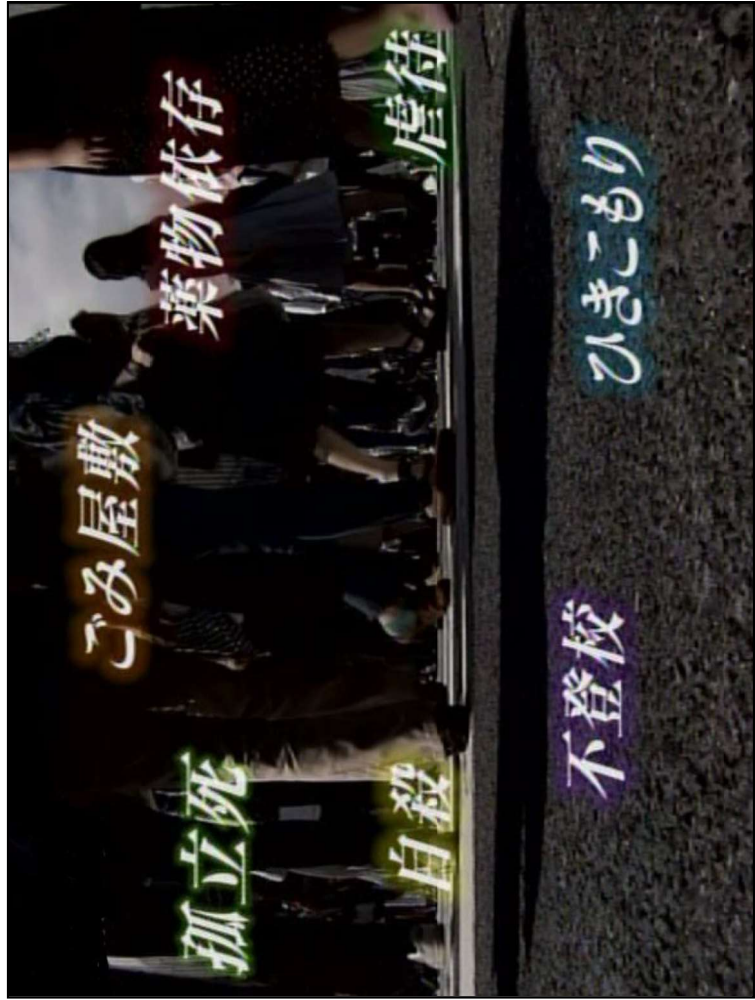
(OECD 2005年)



孤独を感じている子ども(15歳)



ユニセフ 2007





地域共生社会への新たなステージ

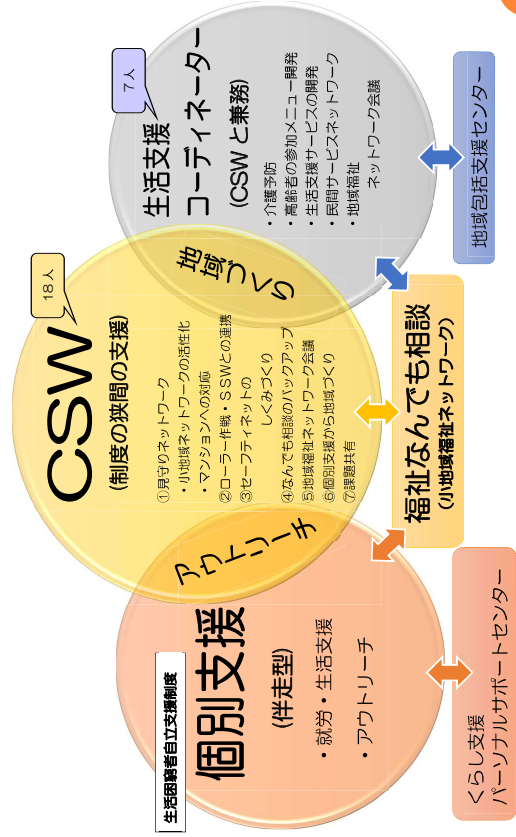
- 一人も取りこぼさない ……SOSを出せない人に届く
 - 排除から包摂へ ……総論賛成各論賛成へ
 - 支えられた人が支える人に
 - 全ての人に居場所と役割を
- ……それを支えるための丸ごと
- 断らない福祉
多機関協働
 - ……福祉が町おこし
 - ……社会的孤立への対応

1, 豊中市社会福祉協議会のCSWの取り組み 排除から包摂へ

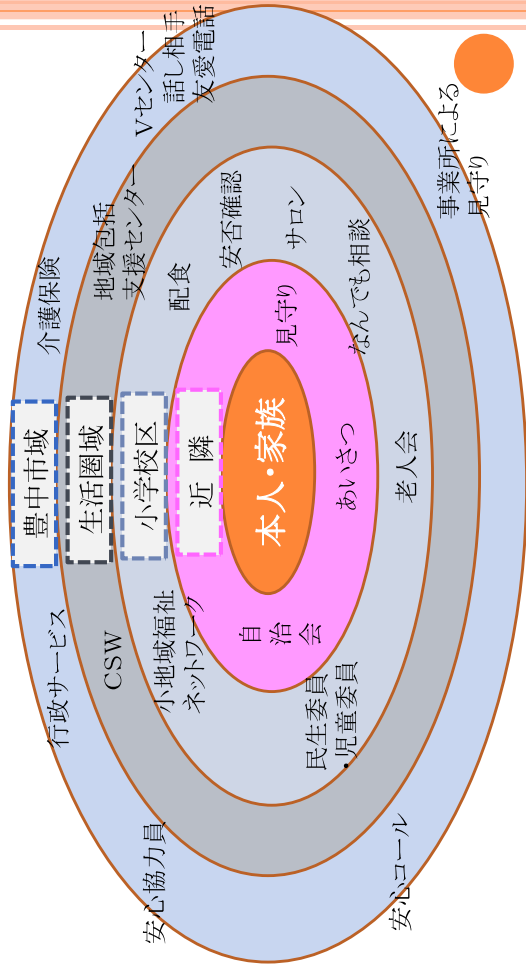
- ① 制度の狭間から地域づくりへ
 - ② 住民と協働するワーカー
 - ③ ライフセーフティネットの仕組み
 - ④ プロジェクト会議(出口づくり)
- 総論賛成各論賛成 排除しない地域づくり
- 個の課題から地域づくりを考える
- ゴミ屋敷・子供の貧困・ひきこもり・8050
 - アルコール依存・刑余者などなど
- 社会的孤立へのアプローチ

【地域福祉推進専門職の役割】

豊中社協(案)



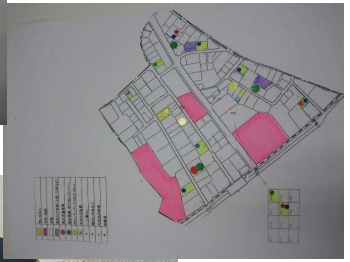
①豊中における重層的な見守りの方法



一人も取りこぼさない①
ローラー作戦 年間3600軒
見守りマップ作り



■	単に高齢者
■	単独の施設
■	住居
■	現在だけ空室(入居し居ない)
■	福祉事業員
■	福祉職員、助け合いセンター
■	ボランティア
■	一人暮らし
○	障がいのある人
○	お母方の家族
○	高齢者

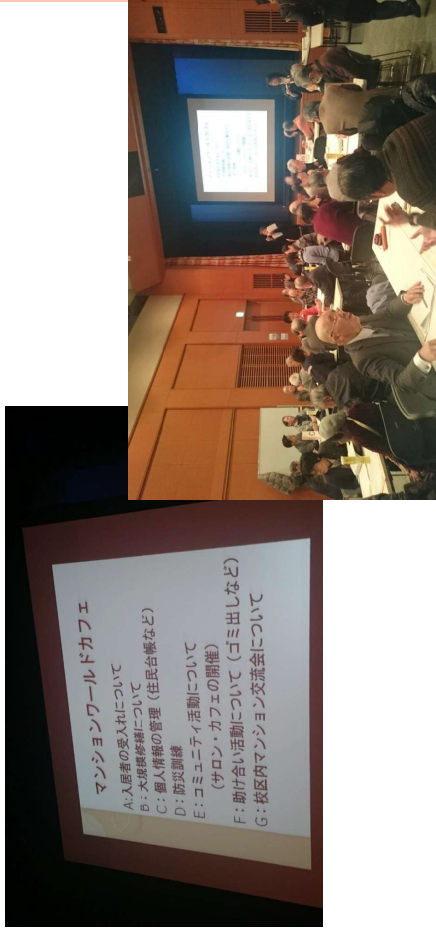


2015年10月のニュース

6:55
和歌山 25℃
潮 1 押 24℃



一人も取りこぼさない② マンシヨンサミット・マンシヨン交流会

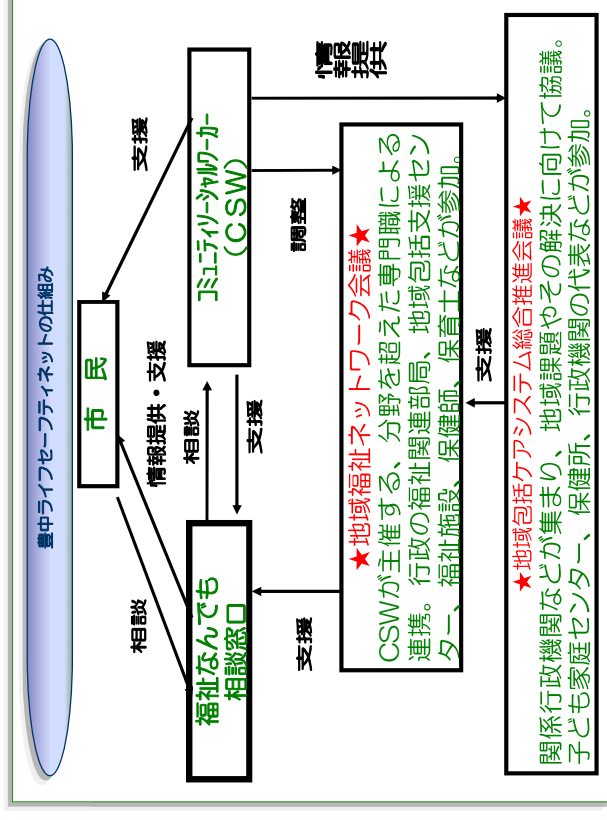


高齢期の引きこもりのパターン

- ①経済的に裕福な場合
 - 親が大企業 → 転勤 不登校 ひきこもり
 - 受験失敗
 - 就職 うつ・リストラ 介護離職
 - ...親の年金で食べられる 孤立 発見が遅れ
- ②経済的に困窮している場合
 - 親が困窮 → 不登校 → 学習できない → ひきこもり
 - ...親元で障害暮らす 貧困の連鎖

8050問題は経済構造によって生まれた平成の遺産

丸ごと・多機関協働 一人も取りこぼさない③



事例1 20年以上の引きこもり

- 父親が大企業に勤めていて転勤
 - 子どもが転勤によりいじめにあう
 - 受験期に失敗 → 家庭内暴力など
 - ひきこもり
- 両親を家族会に参加を呼び掛ける
本人を居場所 → 就労体験 → 就労支援 → OB会

事例2 強迫性障害で家族を支配し生活する

- 今日発性障害でトイレ・お風呂等に入ると時間がかかる
- 家族を支配する
- 親子関係が逆転
- お金を無心する
- お金を出さないと家庭内暴力する
- 入院させる民間業者に頼る 止める

家族会に案内→家庭訪問→入院支援→認知行動療法
→手帳申請→びーのびーの→障害者就労

事例3

- 大阪北部地震のブルーシートボランティア依頼
- 介護離職で10年間ひきこもり
- 親亡き後の生活困窮

地震→ボランティア依頼→就労支援→就職

事例4 30年のひきこもり 8050問題

- 小中学校も不登校気味
- 高校単位制中退
- どこにも相談相手がない(医療・就労でもない)
- 親が高齢になる

家族会→家庭訪問→親子分離→息子生活保護→
就労支援

事例5 親亡き後のひきこもり

- 母親が生前福祉なんでも相談のチラシをもっていた
- 大学卒業後社会に出れない
- 親亡き後チラシをもって福祉なんでも相談に
- 生活困窮者支援で就労に

親がなくなる→福祉なんでも相談→びーのびーの
→就労支援

事例6 特技を生かして社会参加を

- アウトリーチ
- 本人のやりたいことを聞き出す
漫画、詩、出版、音楽、手作り、農業、将棋、なぞなぞ

本人のできる活動を見つければ、その活動を作り出し、誘う
家族が変化を受け入れる勇氣

ふつう

みんながぼくらにいつてくる
「ふつう」になれといつてくる
ぼくらは「ふつう」になれないのに

ふつうというギブスのせい
ぼくらはいっばい傷ついて
ひとりぼっちでないてきた
「かわれ」「かわれ」ってみんながさ
ぼくらにいつてくるけどさ
ほんとにかわらなきやいけなの
ほんとにぼくらなの？

ぼくらは「ふつう」にとどかないのに 詩／たかや

事例6 特技を生かして社会参加を

- アウトリーチ
- 本人のやりたいことを聞き出す
漫画、詩、出版、音楽、手作り、農業、将棋、なぞなぞ

本人のできる活動を見つければ、その活動を作り出し、誘う
家族が変化を受け入れる勇氣

豊中の生活困窮者支援①

生活困窮者支援緊急支援

- 貸付、日常生活自立支援、なんでも相談、資源ごみ持ち去り禁止条例との連携、学校などからの生活困窮者の伴走支援→CSWへ
(緊急対応、多重債務整理、年金手続き、住宅探し、制度利用、就労支援等)
- 善意銀行の生活困窮者貸付
- 民生委員助け合い資金
- 物品提供(衣類、食糧、リユース)
- 施設 社会貢献費用との連携
- 住替え支援
- 食材支援 フードドライブ



豊中の生活困窮者支援②

- CSWの相談の中で対応が難しかった就労まで距離のある若年の支援(ニート・ひきこもり・リストラ・ホームレス等)
→就労準備的な活動 *本人との目標設定(PSプラン)

居場所→就労プログラム→就労体験→就労

- 居場所...週4回(生活面と自己肯定感、仲間意識)
- 就労プログラム2時間/コマ 活動費支給
- 就労体験...新聞配達、団地の草ひき、買物支援、パン屋さん
農業、林業、うどん屋さん等
→職域開発地域のネットワーク発揮 活動費支給
- びーの×マルシェでの定期的な就労体験
- 就労訓練...パートで一定期間仕事に就く(この間就活)
- 就労支援...就労支援センター・ハローワークとの連携

アウトリーチ 家庭訪問 家族会参加	居場所参加	中間的就労	就労体験	就労準備	一般就労
	生活支援				

支えられていた人が支え手に変わる②

プログラム進捗状況 (就労体験)

- 就労体験プログラム...ジョブサポーターと共に仕事を体験
- 出前市場のサポート...府営住宅での出前市場の際、



情報誌、夕刊配達



お買い上げの商品を家まで運ぶ

支えられていた人が支え手に変わる③

福祉便利屋(住民主体B1)の取組
200円/15分の支え合い



びーの×マルシェ

びーの×マルシェオープン!
「豊中びーのびーの」(引きこもり等の若者支援事業)と「豊中市小売業団体連合会」の協力でお店を6/12にオープン!



課題

- 引きこもり対策が39歳までとなっていること
- 引きこもりの背景や原因はさまざまであるが自尊心を戻していくためのつながりや場所が必要であること
介護離職、リストラ、メンタル、障害、いじめ等
- 障害や年齢不問の居場所(活動費があればさらによい)
- 引きこもりだけを特化していくと新たな狭間が生まれる
- 相談方法の検討 当事者相談の課題
- 早期発見 教育との連携 (不登校・高校中退等)
- 8050問題は社会的課題という啓発...社会的孤立
- 全国に相談場所が必要...権利としての社会参加の保障
生活困窮者自立支援事業の活用
アウトリーチできる職員としてこの事業に配置しては？

ソーシャルワーカーに求められる10のカギ

- ① 入口と出口づくり 入口 早期発見ネットワーク 解決力が発見力
出口 一般就労だけが出口ではない
- ② 本人の自己肯定感を高める 徹底した本人尊重
- ③ 翻訳機能 行政と本人 事業所と本人 地域と本人
- ④ SOSを言える気づける地域づくり(知ることによって優しさが生まれる)
- ⑤ 開発力 ないものは作る セーフティネットを作る事業 例 緊急小口資金等
- ⑥ できる・できないのギャップのワーカーではいけない
本人の生活から支援を組立てる 支援から参加の視点
- ⑦ 家族全体的の見立てが大切
包括から見たら虐待? 息子支援は?
保護か?就労支援?
- ⑧ スモールステップを積み上げる 本人と目標を共有する
- ⑨ 諦めない心 人生をあきらめかけて人を支える私たちが先に諦めてはいけない
- ⑩ 援助関係づくり サービス拒否は支援者が拒否されてる
あなたを心配している。苦しい思いを受け止める
社会資源の活用は本人が主体化しないと始まらない